

学校における福祉教育(福祉活動)の取り組みに関する調査の概要

1. 調査の目的

県内の小・中学校、高等学校における福祉教育の取り組み状況と課題、今後の取り組みに向けた希望などを把握し、学校と地域、社会福祉関係者が協働して福祉教育を推進していくための基礎資料とする。

2. 調査の実施者

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

3. 調査の協力者

滋賀県教育委員会

4. 調査対象

県内の全小学校・中学校、高等学校(通信制は除く。) 396校

4. 調査項目

(1)福祉教育の目的・対象

(2)福祉教育の取り組み状況

内容、学習の種類と時間数、 取り組まれた理由、取り組まれなかった理由
事前学習、 学校内の体制、 学校外の社会資源との協力

(3)取り組みの結果

児童・生徒の変化、 教員の変化

(4)取り組みの問題点

(5)今後の取り組みと希望

(6)福祉教育(福祉活動)を推進するにあたっての課題

(7)社会福祉協議会への要望

5. 調査方法

郵送調査(悉皆調査)

6. 調査基準日

平成17年10月1日(土)

7. 調査回答期限

平成17年10月31日(月)

8. 調査回答数・回答率

334校(回答率:84.3%)

内訳

小学校・・・・・・ 197校(回答率:84.9%)

中学校・・・・・・ 83校(回答率:79.0%)

高等学校・・・・・・ 54校(回答率:91.5%)



この調査は共同募金配分金を活用して実施しました

学校における福祉教育(福祉活動)の取り組みに関する調査結果の概要

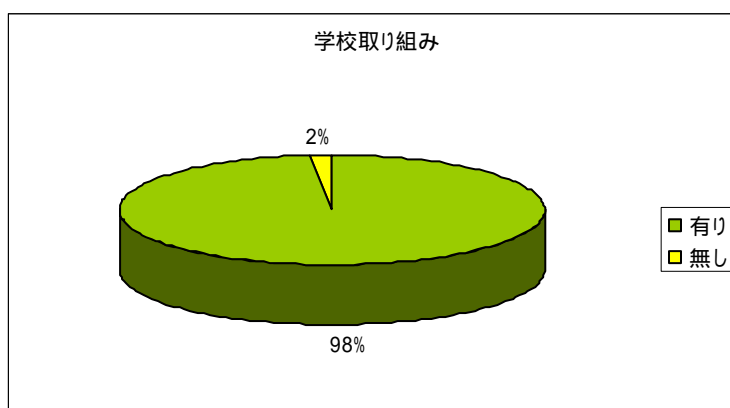
1 取り組み状況

(1) 取り組みの有無

1つの学年以上で取り組みのある学校は328校で全体の98%と殆どの学校で取り組まれており、小学校と中学校では全学校で取り組まれている。

問15の回答から「取り組まなかった理由」としては、「他の分野に重点的に取り組んでいる」、「カリキュラムに余裕がない」が多くなっている。

学校での取り組み	計
有り	328
無し	6
計	334



(2) 取り組み内容

小学校

取り組みの数で最も多いのは、「学校への招待・交流」、次いで「読み物・ビデオを用いた学習」、「高齢者等への手紙」、「施設の訪問・交流」となっている。

このうち、低学年(1,2年)では、「学校への招待・交流」、「読み物・ビデオを用いた学習」、中学年(3,4年)では、「点字・手話」、「学校への招待・交流」、高学年(5,6年)では、「学校への招待・交流」、「高齢者等への手紙」が多くなっている。

取り組まれた学校の数では、「点字・手話の学習」に取り組んだ学校が75.1%と最も多く、次いで「学校への招待・交流」(71.1%)、「施設の訪問・交流」(66.5%)が多くなっている。

中学校

取り組みの数で最も多いのは、「ボランティア体験」、次いで「施設の訪問・交流」、「読み物・ビデオを用いた学習」、「車イス体験」の順となっている。

取り組まれた学校の数では、「施設の訪問・交流」に取り組んだ学校が(75.9%)と最も多く、次いで「ボランティア体験」(65.1%)、「車イス体験」(56.6%)が多くなっている。

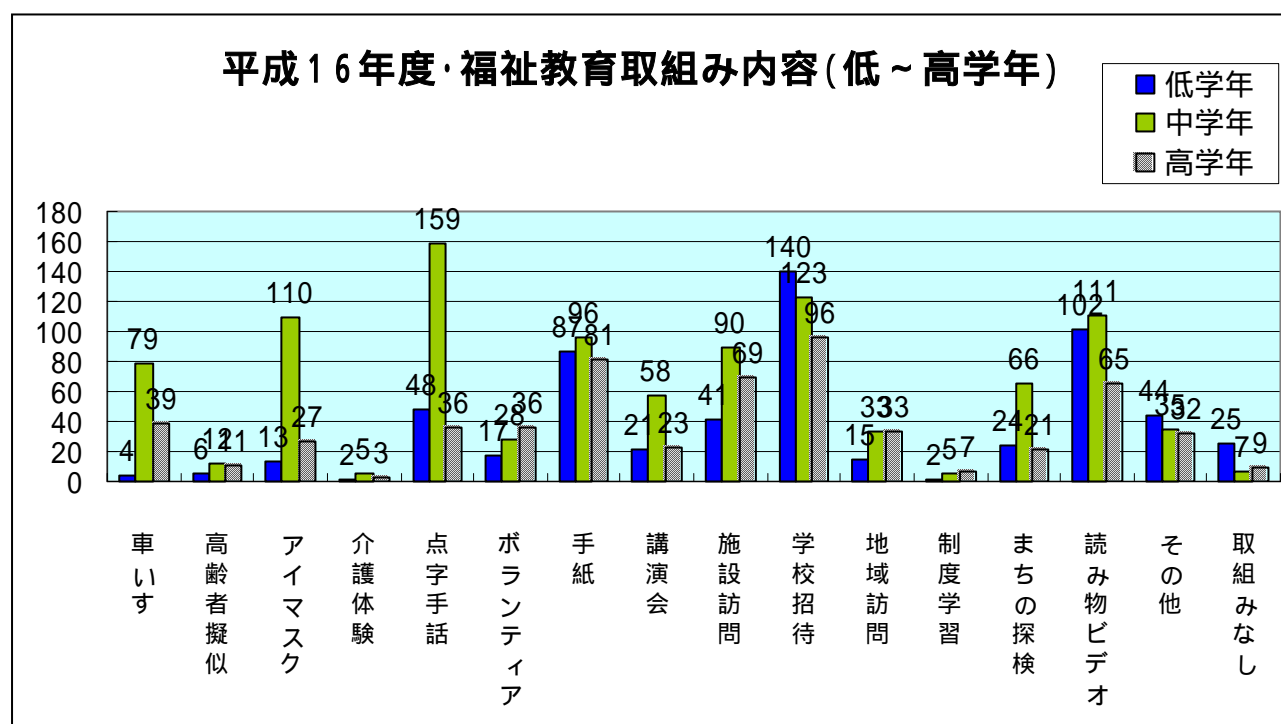
高等学校

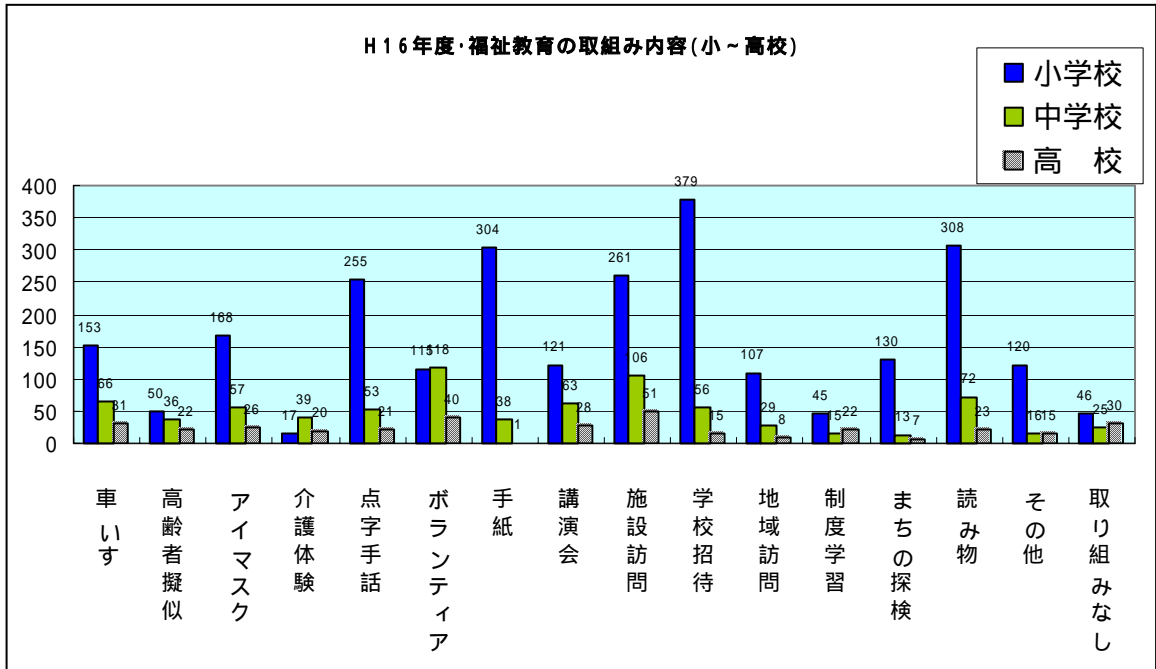
取り組みの数で最も多いのは、「施設の訪問・交流」、次いで「ボランティア体験」、「車いす体験」、「当事者の講演会」の順となっている。

取り組まれた学校の数では、「施設の訪問・交流」に取り組んだ学校が(56.3%)と最も多く、次いで「ボランティア体験」(47.9%)、「車いす体験」(43.8%)が多く、取り組みの数と同じ順位となっている。

以上から、低年齢の時には学習や学校へ招待しての交流が多く、年齢が上がるにつれて、施設など生活の場での交流や体験活動が多くなる傾向がある。

取り組み内容	低学年	中学年	高学年	取り組み内容	小学校	中学校	高校
車いす体験	4	79	39	車いす体験	153	66	31
高齢者擬似体験	6	12	11	高齢者擬似体験	50	36	22
アイマスク体験	13	110	27	アイマスク体験	168	57	26
介護体験	2	5	3	介護体験	17	39	20
点字・手話講習	48	159	36	点字・手話講習	255	53	21
ボランティア体験	17	28	36	ボランティア体験	115	118	40
高齢者等へ手紙	87	96	81	高齢者等へ手紙	304	38	1
当事者の講演会	21	58	23	当事者の講演会	121	63	28
施設訪問・交流	41	90	69	施設訪問・交流	261	106	51
学校招待・交流	140	123	96	学校招待・交流	379	56	15
地域の高齢者等の訪問	15	33	33	地域の高齢者等の訪問	107	29	8
制度などの学習	2	5	7	制度などの学習	45	15	22
まちの探検	24	66	21	まちの探検	130	13	7
読み物・ビデオ学習	102	111	65	読み物・ビデオ学習	308	72	23
その他	44	35	32	その他	120	16	15
取組みなし	25	7	9	取組みなし	46	25	30





(3) 取り組まれた時間

時間の種類

小学校、中学校では、「総合的な学習の時間」での取り組みが圧倒的に多く、次いで、小学校では、「教科(道徳以外)」、「道徳」と教科での取り組みが多く、中学校では、「生徒会」、「学校(学年)行事」が多くなっている。

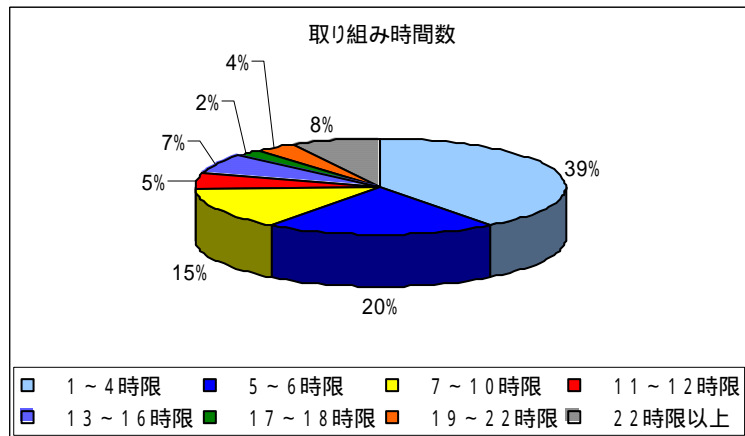
高等学校では、「教科」が最も多く、次いで「学校(学年)行事」、そして「生徒会」と「クラブ活動・部活動」がほぼ同じ割合で、両方を合わせると「学校(学年)行事」より多い。

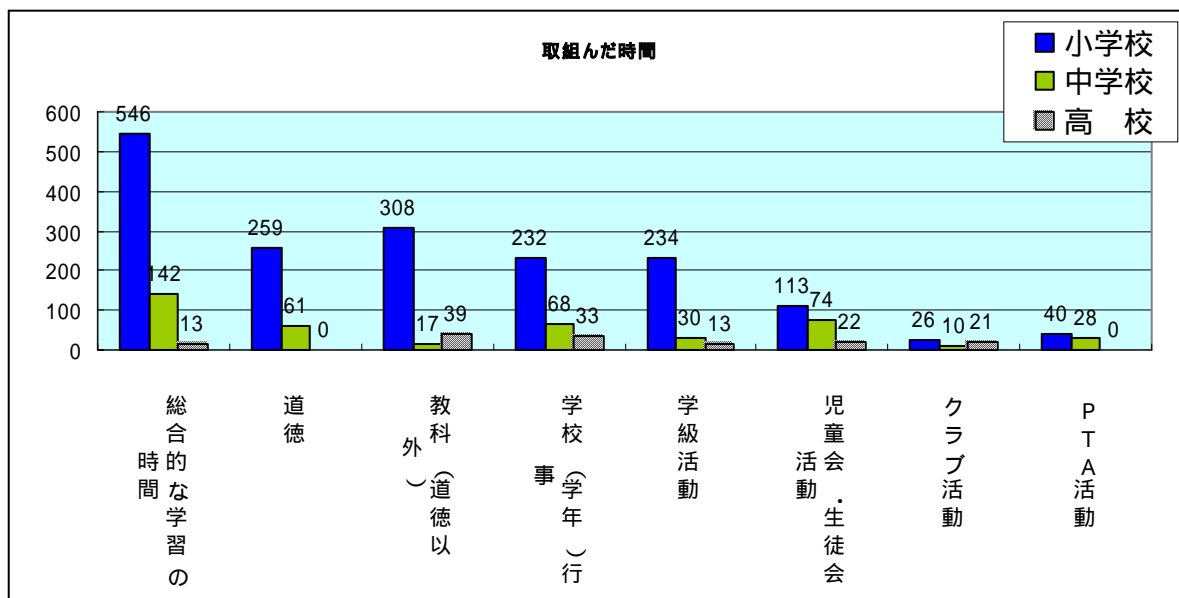
以上から、取り組みの中心は総合的な学習の時間も含めた「教科」ではあるが、年齢が上がるにつれて、生徒の自主的な取り組みが増える傾向がある。

時間数

小学校、中学校、高等学校とも、「1～4時限」が圧倒的に多く、次いで、「5～6時限」となっている。小学校、中学校では、「7～10時限」がそれに続いているが、高等学校では「22時限以上」が多い。

取り組み時間	計
1～4時限	525
5～6時限	259
7～10時限	192
11～12時限	63
13～16時限	89
17～18時限	32
19～22時限	47
22時限以上	102





(4) その学年で取り組まれた理由

小学校、中学校、高等学校とも、「豊かな人間性を育むため必要だから」が圧倒的に多く、小学校では、「発達段階から見て効果的なため」、「学校で決まっている」がほぼ同数で続き、中学校、高等学校では「学校で決まっている」が多くなっている。

	小学校	中学校	高校
学校で決まっているため	475	104	30
発達段階からみて効果的	478	82	14
実施可能な学年	355	48	14
資格取得に必要	4	0	9
豊かな人間性を育む	733	170	76
その他	60	8	18

(5) 複数学年で取り組まれた場合の系統的な整理

小学校、中学校の約3割、高等学校の約1割が「整理した」と、小学校、中学校、高等学校とも6割前後の学校が「整理をしていない」と回答されている。

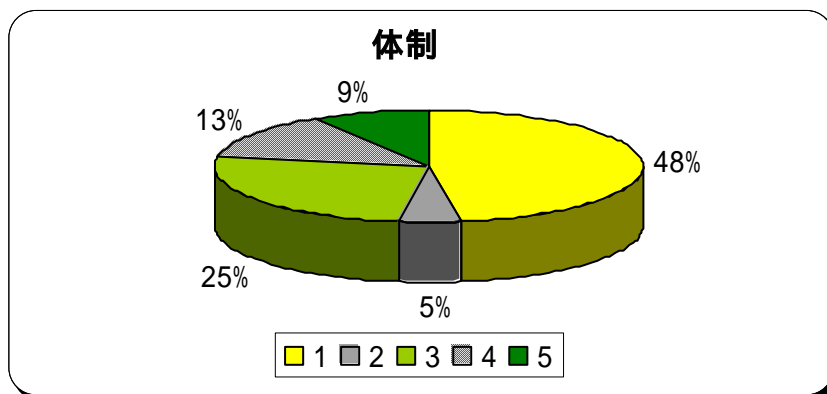
	小学校	中学校	高校	計
していない	118	51	34	203
した	64	26	6	96
無回答	15	6	14	35

(6) 学校内の体制

「企画から実施までを複数で行った」が、小学校で43.2%、中学校で62.7%、高等学校で33.3%で最も多く、次いで、小学校と中学校では、「企画は担当だけでいい、実施は複数で行った」がそれぞれ24.9%、27.7%と多く、高等学校では「企画から実施まで担当だ

けで行った」が24.1%と多くなっている。

	小学校	中学校	高校	計
企画から実施まで複数	85	52	18	155
企画複数、実施担当	14	1	1	16
企画担当、実施複数	49	23	11	83
企画・実施担当	27	4	13	44
その他	21	3	5	29



(7) 体験や施設での交流などの場合の事前学習

小学校、中学校、高等学校とも、「説明・講話」が最も多く、次いで、小学校では、「調べ学習」と「話し合い活動」が同数で続き、中学校、高等学校では「資料の配布」が多くなっている。

「特に事前学習はしていない」は、小学校で8校、中学校で3校、高等学校で8校と少数ではあるがあった。

	小学校	中学校	高校
説明・講話	170	70	30
実技指導	43	29	12
調べ学習	120	35	8
話し合い活動	120	19	8
資料の配布	68	40	23
その他	10	4	6
していない	8	3	8

2. 学校外の協力者

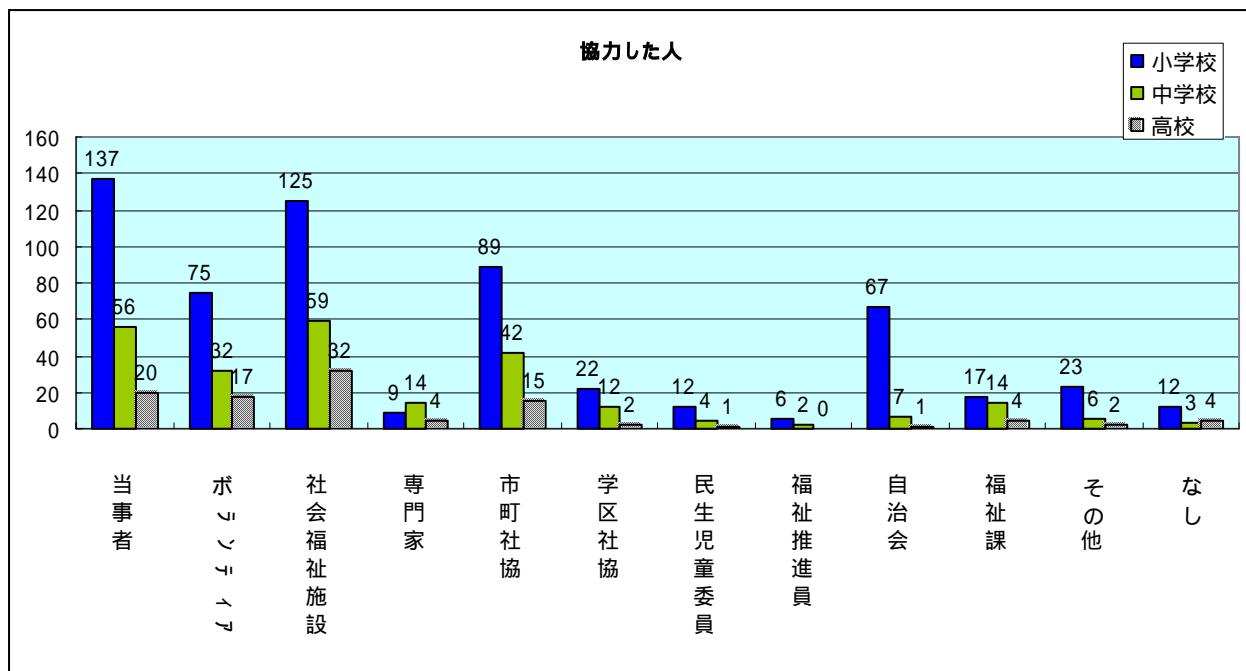
(8) 協力者の種類

小学校では、取り組み数で最も多い協力者は、「当事者」、次いで「社会福祉施設」、「市町社会福祉協議会」、「ボランティア、ボランティアグループ」、NPO、市民活動団体」(以下「ボランティア等」と略記する。) 「自治会、老人クラブ、子ども会」となっている。

中学校、高等学校では、「社会福祉施設」、次いで「当事者」が多く、中学校では、「市町社会福祉協議会」、「ボランティア等」の順、高等学校では、「ボランティア等」、「市町社会福祉協議会」の順に多くなっており、他の協力者は殆ど無い。

以上から、学校種別に関わりなく、「当事者」と「社会福祉施設」が協力者の中心であることがわかる。

	小学校	中学校	高校
当事者	137	56	20
ボランティア	75	32	17
社会福祉施設	125	59	32
専門家	9	14	4
市町社協	89	42	15
学区社協	22	12	2
民生児童委員	12	4	1
福祉推進員	6	2	0
自治会	67	7	1
福祉課	17	14	4
その他	23	6	2
なし	12	3	4



(9)協力の課題

小学校、中学校、高等学校とも、「打合せなどをする時間が無いこと」が最も多く、次いで「どういうルートで協力を依頼したらいいかわからないこと」が多くなっている。

	小学校	中学校	高校	計
打ち合わせ等の時間がない	158	56	25	239
協力してもらう方法が分からない	25	12	6	43
誰と協力したらよいか分からない	21	12	5	38
協力依頼のルートが分からない	55	28	14	97
学校外に相談する人がいない	5	2	2	9
その他	15	10	12	37

(8-9)学校外の協力者による協力する際の課題の違い(問8×問9のクロス)

昨年度の取り組みに対する学校外の協力者の種類により、協力する際の課題が違ってくるかを、それぞれの協力者の回答数に占める課題別の回答数で見ると、協力者の種類に関係なく、「打合せなどをする時間が無い」が最も多く、次いで「どういうルートで協力を依頼すればいいかわからない」が多くなっている。

殆どの協力者で「どう協力してもらえばいいかわからない」がこれらに続いているが、「専門家」では「その他」が、「自治会・老人クラブ・子ども会」では「誰と協力したらいいかわからない」が同数となっている。「社会福祉協議会」、「民生委員児童委員」では「その他」が次いで多くなっている。

協力者の種類別に協力する際の課題の割合を見ると、「打合せなどをする時間が無い」は殆どの協力者で5割前後で、「福祉推進員、福祉協力員」は6割強と高い。「どう協力してもらえばいいかわからない」は殆どの協力者で2割前後であるが、「民生委員児童委員」、「ボランティア等」では、それぞれ26.9%、24.8%と高くなっている。

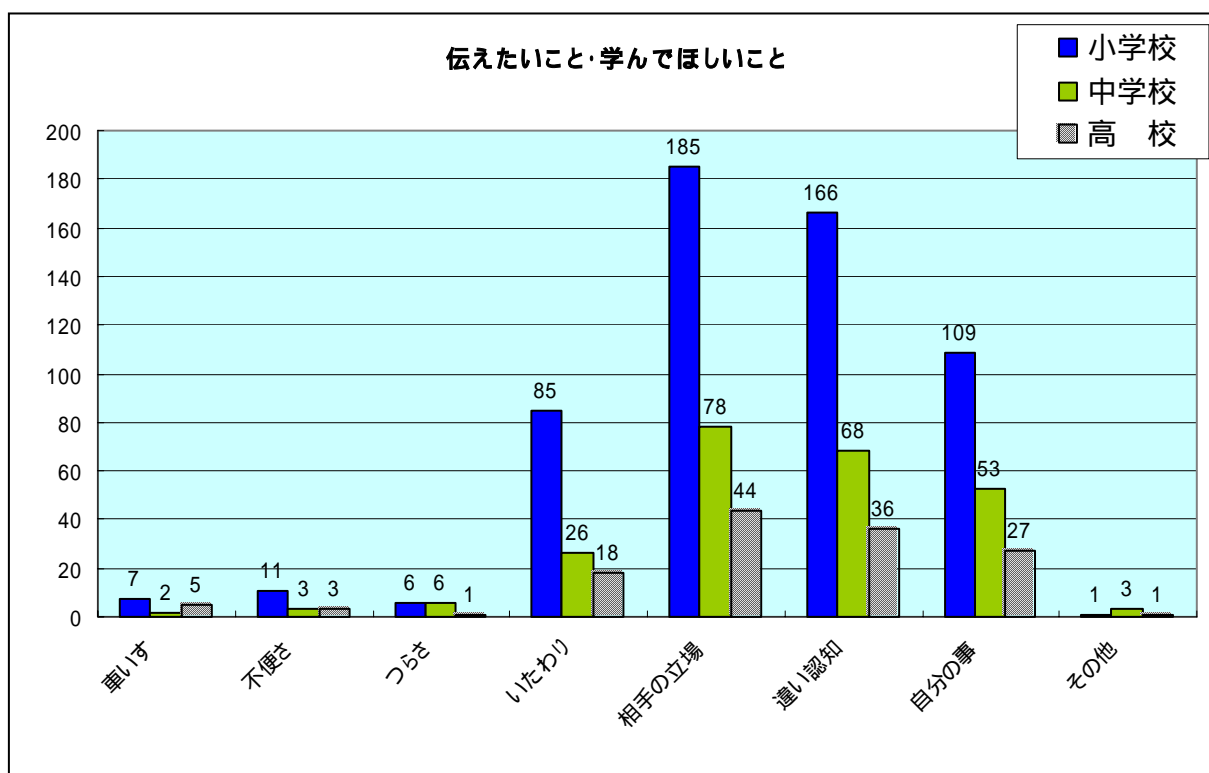
なお、昨年度の取り組みに「学校外で協力した人はいない」場合の課題では、「打合せなどをする時間が無い」が最も多く、次いで「どう協力してもらえばいいかわからない」、「誰と協力したらいいかわからない」が多くなっており、事例などにより協力者の種類別に協力方法を示すことも必要と考えられる。

3. 福祉教育の目的・効果等

(10)児童・生徒に伝えたいこと、学んで欲しいこと

小学校、中学校、高等学校とも、「相手の立場に立って考えること」が取り組み数の3割強と最も多く、次いで「一人ひとりの違いを認める」が3割弱、「自分のこととして考える力」が約2割と多くなっている。

	小学校	中学校	高校
車いすの扱い方などの技術	7	2	5
段差などの不便さ	11	3	3
障害のあることのつらさ	6	6	1
高齢者や障害のある方へのいたわり	85	26	18
相手の立場に立って考えること	185	78	44
一人ひとりの違いを認める	166	68	36
自分のこととして考える力	109	53	27
その他	1	3	1

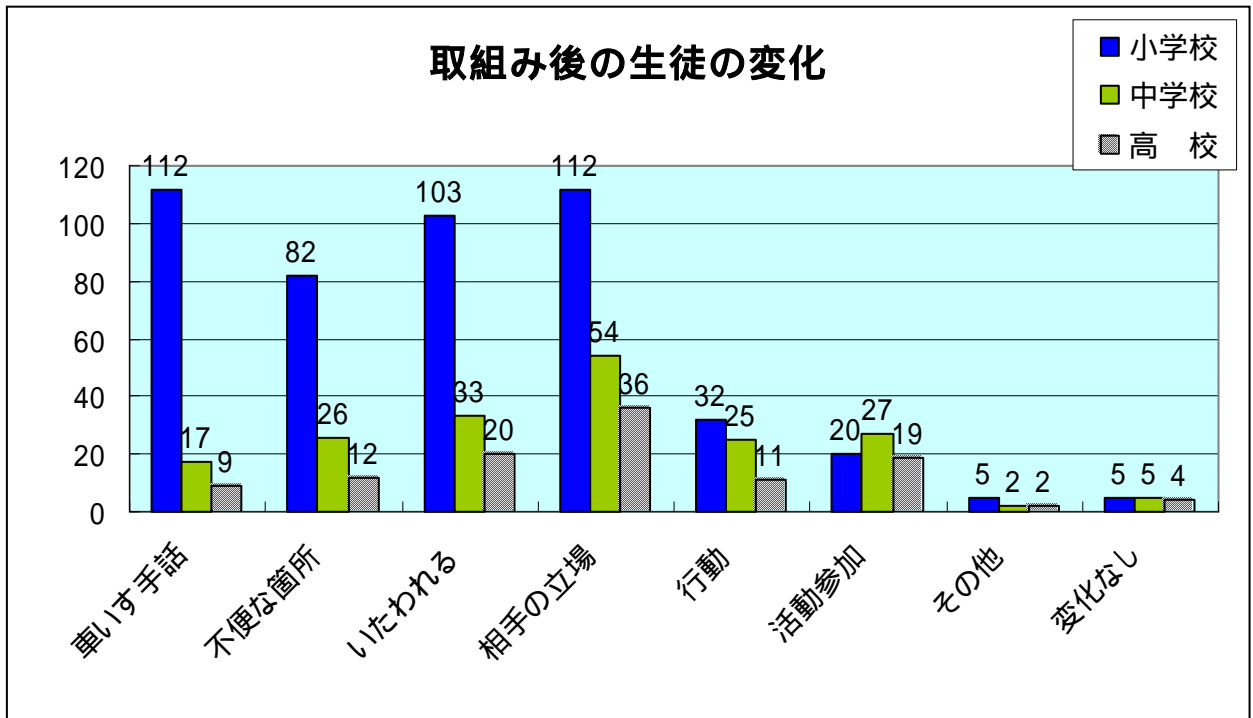


(11) 児童・生徒の変化

小学校では、「車いすや手話などに興味をもつようになった」と「相手の立場になって考えられるようになった」が同数の取り組み数で最も多く、中学校と高等学校では、「相手の立場になって考えられるようになった」が最も多かった。

次いで、小学校、中学校、高等学校とも「高齢者や障害のある方をいたわれるようになった」が多くなっている。

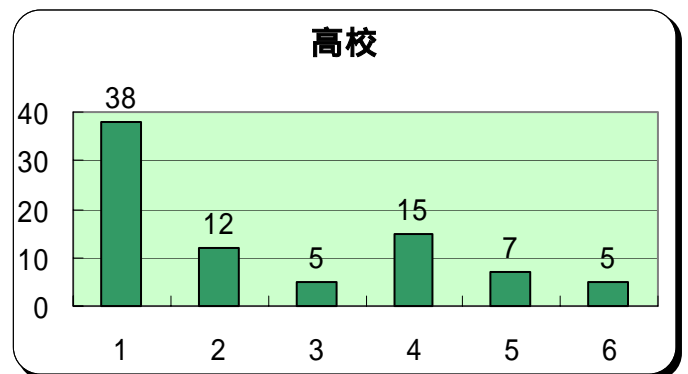
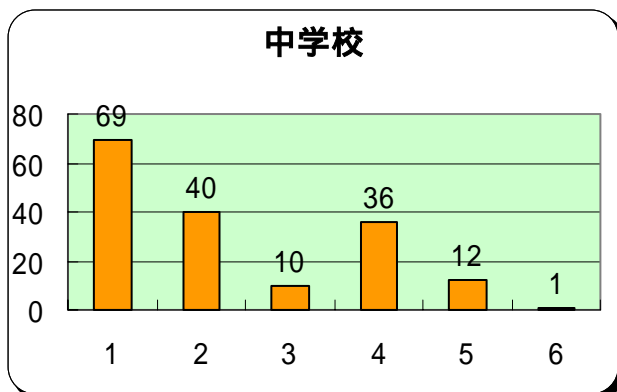
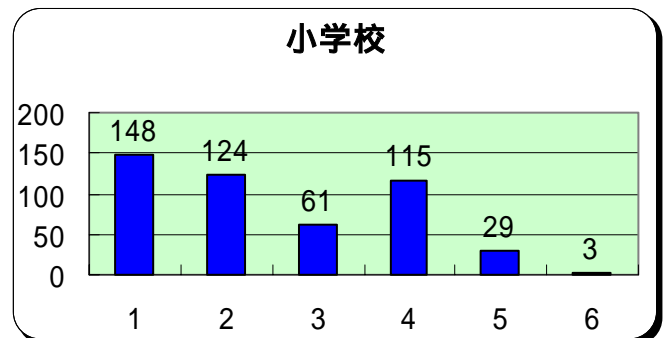
	小学校	中学校	高校
車いすや手話などに興味をもつようになった	112	17	9
段差など不便な箇所に気付くようになった	82	26	12
高齢者や障害のある方をいたわれるようになった	103	33	20
相手の立場になって考えられるようになった	112	54	36
自ら進んで考え、行動できるようになった	32	25	11
ボランティア、福祉活動に参加するようになった	20	27	19
その他	5	2	2
変化なし	5	5	4



(12) 児童・生徒の変化の把握方法

小学校、中学校、高等学校とも、「感想文の作成」が取り組み数の3割～4割、学校数でも7割～8割と最も多く、次いで、小学校、中学校では、「感想や意見を発表する場をもった」、「日頃の子どもの話や行動から把握した」の順に、高等学校では、「日頃の子どもの話や行動から把握した」、「感想や意見を発表する場をもった」の順に多くなっている。

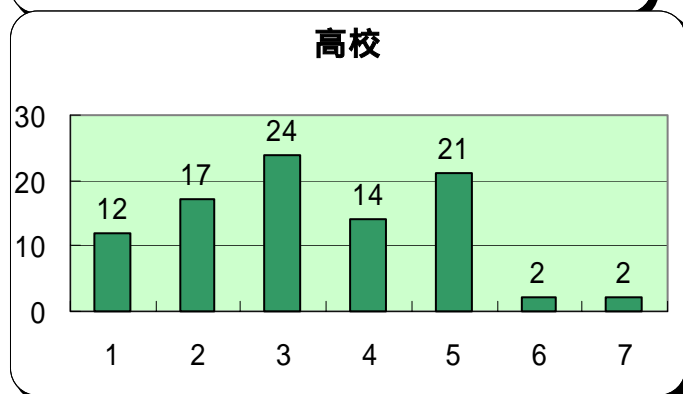
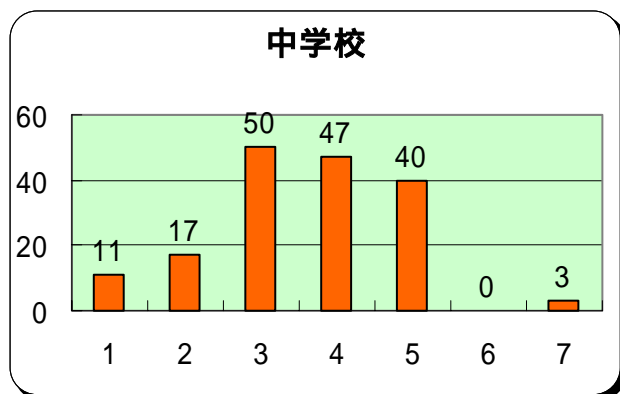
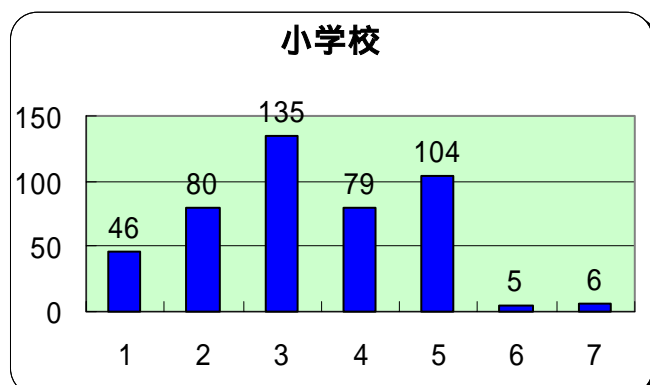
	小学校	中学校	高校
感想文の作成	148	69	38
発表の場をもつ	124	40	12
話合の場をもつ	61	10	5
日頃の話や行動	115	36	15
保護者等の話	29	12	7
その他	3	1	5



(13) 教員の変化

小学校、中学校、高等学校とも、「学校外の人とつながりができた」が取り組み数の3割前後、学校数でも5割～6割と最も多く、次いで、小学校、高等学校では、「学校外の人とつながることの大切さがわかった」、「高齢者や障害のある」方と自然にふれあえるようになった」の順に、中学校では、「学校内に福祉教育への理解が広がった」、「学校外の人とつながることの大切さがわかった」の順に多くなっている。

項目	数字	説明
1	46	高齢者等の不便さやつらさがわかるようになった
2	80	高齢者等と自然にふれあえるようになった
3	135	学校外の人とつながりができた
4	79	学校内に福祉教育の理解が広がった
5	104	学校と学校外の人がつながる大切さがわかった
6	5	その他
7	6	特に変化なし



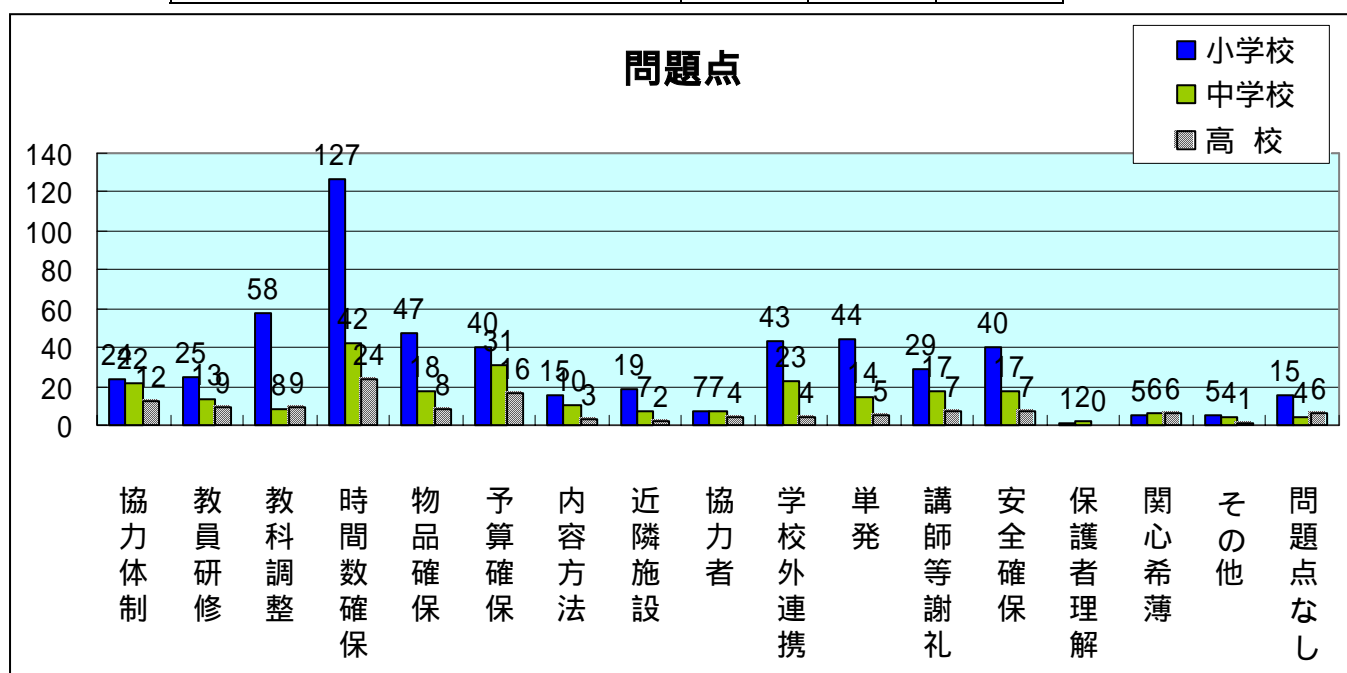
4. 課題・問題点

(14) 企画・実施の問題点

小学校、中学校、高等学校とも、「時間数の確保」が最も多く、次いで、小学校では、「他の教科との調整」、「必要な物品の確保」、「取り組み内容が繋がらず単発になった」の順に、中学校、高等学校では、「必要な予算の確保」が次いで多く、中学校では「学校外との連携」が、高等学校では「教員の協力体制」がこれに続いて多くなっている。

	小学校	中学校	高校
教員の協力体制	24	22	12
教員の研修	25	13	9
他の教科等との調整	58	8	9
時間数の確保	127	42	24
必要な物品の確保	47	18	8
必要な予算の確保	40	31	16

内容や方法がわからない	15	10	3
施設等が近隣にない	19	7	2
学校外のことわからない	7	7	4
学校外との連携	43	23	4
取り組みが繋がらず単発になった	44	14	5
講師等の謝礼	29	17	7
安全の確保	40	17	7
保護者の理解	1	2	0
児童・性との関心が薄い	5	6	6
その他	5	4	1
特に問題点なし	15	4	6



5. 今後の希望

(16) 今後の取り組み内容

小学校では、「車いす体験」が最も多く、次いで「点字・手話の学習」、「ボランティア体験」の順に多くなっている。中学校、高等学校では「ボランティア体験」、「施設の訪問・交流」の順に多く、中学校では「車いす体験」、「当事者の講演会」の順に多く、高等学校では、「車いす体験」、「高齢者疑似体験」、「介護体験」が同数となっている。

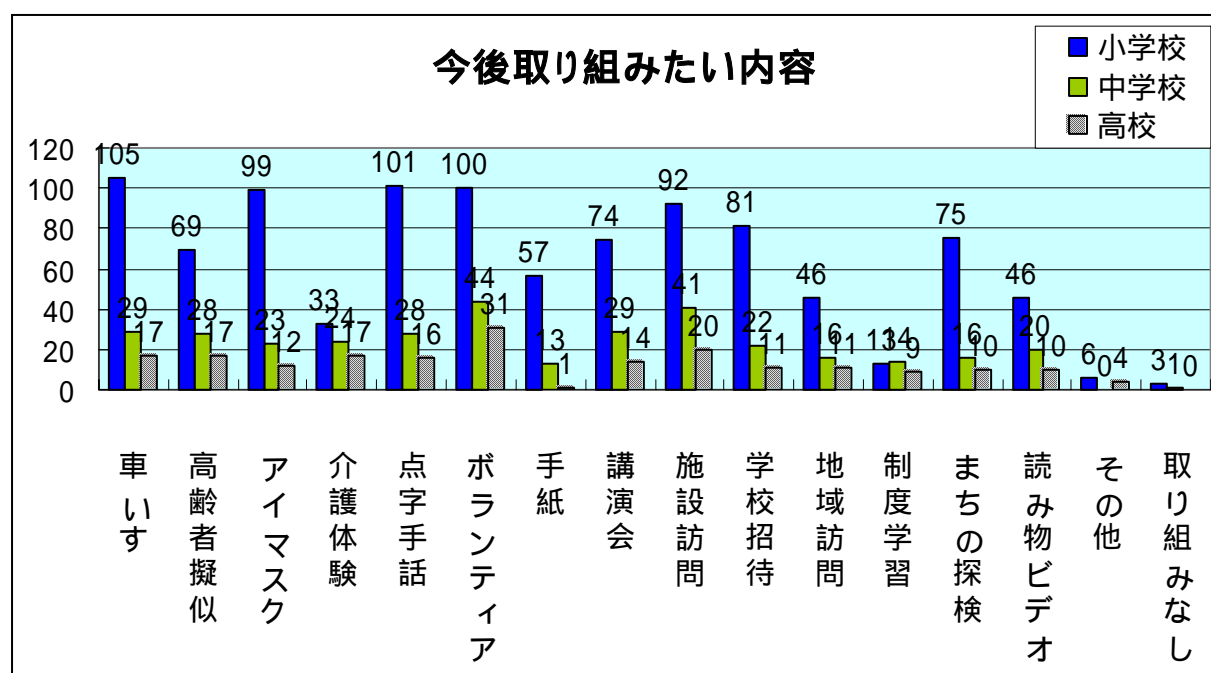
学校種別に関係なく、体験活動への希望が高い傾向がみられる。

(17) 今後の取り組みに向けて

小学校、中学校、高等学校とも、「学校外の施設や人などの情報交換の場」が最も多く、次いで、「他校の取り組み事例の提供」が多くなっており、中学校では「教員への福祉や福祉教育についての研修」が同数で、小学校、高等学校でも「教員への福祉や福祉教育についての研

修」が続いている。

	小学校	中学校	高校
車いす体験	105	29	17
高齢者擬似体験	69	28	17
アイマスク体験	99	23	12
介護体験	33	24	17
点字・手話講習	101	28	16
ボランティア体験	100	44	31
高齢者等へ手紙	57	13	1
当事者の講演会	74	29	14
施設訪問・交流	92	41	20
学校招待・交流	81	22	11
地域の高齢者等の訪問	46	16	11
制度などの学習	13	14	9
まちの探検	75	16	10
読み物・ビデオ学習	46	20	10
その他	6	0	4
取り組みなし	3	1	0



6. 地域の方も一緒に学習する取り組み

(18) 取り組みへの考え

「必要と思い、取り組んでいる」学校が、小学校で33校(16.8%)、中学校で10校(12.1%)、高等学校で9校(16.7%)ある。

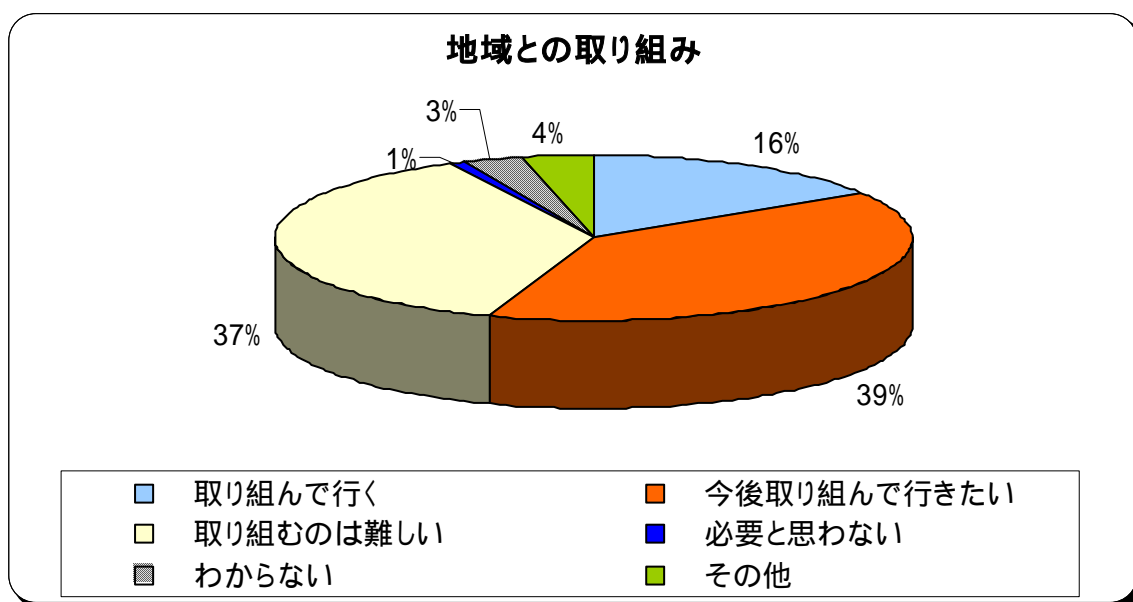
「必要と思うので、今後、取り組んでいきたい」と回答した学校が、小学校、中学校でそ

れぞれ4割前後と最も多く、高等学校では3割弱ある。

「必要と思うが、取り組むのは難しい」と回答した学校が、小学校で33.0%、中学校で38.6%ある。高等学校では46.3%と学校数で最も多くなっている。

なお、「必要と思わない」と回答した学校が3校あった。

	小学校	中学校	高校	計
取り組んで行く	33	10	9	52
今後取り組んで行きたい	82	33	15	130
取り組むのは難しい	65	32	25	122
必要と思わない	1	2	0	3
わからない	3	3	4	10
その他	11	0	1	12



(18-8) 学校外の協力者による考えの違い(問8×問18のクロス)

学校外の協力者の種類や関わりにより地域の方も一緒に学習する取り組みへの考えの違いを、それぞれの考えに占める協力者の種類別の学校数で見ると、協力者の種類では、「取り組んでいる」学校では、「当事者」と「社会福祉施設」がともに71.2%で最も多く、「今後、取り組んでいきたい」学校は「当事者」(65.3%)、「社会福祉施設」(63.8%)の順で、「取り組むのは難しい」学校でも「社会福祉施設」(65.6%)、「当事者」(59.0%)の順で多く、考えの違いに関わらず、「当事者」と「社会福祉施設」が多くなっている。

また、「取り組んでいる」、「今後、取り組んでいきたい」学校では、「社会福祉協議会」がこれらに次いで多いが、「取り組むのは難しい」学校では「ボランティア等」になっているものの「社会福祉協議会」との差は僅かで、協力者の種類による考えの違いはあまり無いものと考えられる。

ただし、これらの協力者を回答した学校数の割合に注目してみると、「取り組んでいる」学

校では、「当事者」、「社会福祉施設」が7割強、次の「社会福祉協議会」でも6割を超えているのに対し、「今後、取り組んでいきたい」学校では「当事者」、「社会福祉施設」が6割強、「社会福祉協議会」が4割で、「取り組むのは難しい」学校では、「社会福祉施設」は6割強であるものの「当事者」は6割を切るなど、相対的に学校外の協力者の関わりが少ない。

このことから、実際の取り組みへの学校外の協力者の関わりが多いほど、地域と一緒に学習することを積極的に考える傾向があると言える。

学校における福祉教育(福祉活動)の取り組みに関するアンケート調査票

記入にあたって

- ・貴校の取り組みに該当する回答を選択し、回答用紙に回答番号のみを記入してください。
- ・選択する回答数は、設問の指示に従ってください。指示の無い設問の回答数は1つです。
- ・「その他」を選択された場合は、内容を回答用紙の()内に簡潔に記入してください。
- ・【学年毎にお答えください】と指定している設問については、回答用紙の該当する学年の設問欄に回答番号を記入してください。

問1：昨年度（平成16年度）福祉教育にどのような内容で取り組まれましたか？
（複数回答可）【学年毎にお答えください。】

- | | | |
|------------------|-------------------------|----------|
| 車いす体験 | 高齢者疑似体験 | アイマスク体験 |
| 介護体験 | 点字や手話の学習 | ボランティア体験 |
| 高齢者等への手紙 | 当事者の講演会 | 施設の訪問・交流 |
| 学校への招待・交流 | 地域の高齢者等の訪問 | 制度などの学習 |
| まちの探検(バリアフリー調査等) | 読み物・ビデオを用いた学習 | |
| その他 | | |
| 取り組んでいない | と回答された学校は、問14以降を回答ください。 | |

*問2～13は、昨年度、福祉教育(福祉活動)に取り組まれた学校のみ回答してください。

問2：取り組まれたのは何の時間ですか？（複数回答可）【学年毎にお答えください。】

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 総合的な学習の時間 | 道徳 | 教科（道徳以外） |
| 学校(学年)行事 | 学級活動 | 児童会・生徒会活動 |
| クラブ活動・部活動 | P T A 活動 | その他 |

問3：学年で全体として何時限ほど取り組まれましたか？【学年毎にお答えください。】

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1～4時限 | 5～6時限 | 7～10時限 |
| 11～12時限 | 13～16時限 | 17～18時限 |
| 19～22時限 | 22時限以上 | |

問4：その学年で取り組まれた理由は何ですか？（複数回答可）

【学年毎にお答えください。】

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 学校で決まっているため | 発達段階から見て効果的なため |
| 取り組み内容が実施可能な学年のため | 資格を取得するために必要だから |
| 豊かな人間性を育むために必要だから | その他 |

問5：複数学年で取り組まれた場合、取り組みの系統的な整理はされましたか？
（例：何学年では何に取り組み何を目指し、それを次学年で発展させる等）

していない した 整理された資料等があれば回答用紙に添付ください。

問6：福祉教育に取り組むに当たって学校内での体制はどうされましたか？

企画から実施までを複数で行った
企画は複数で行い、実施は担当だけで行った
企画は担当だけで行い、実施は複数で行った
企画から実施まで担当だけで行った
その他

問7：体験や施設での交流などをされた場合、どのような事前学習をされましたか？

体験直前の器具の扱い方や注意点などの説明・指導は、対象外とします。
(複数回答可)

説明・講話(例：障害のこと、施設や体験の内容など)
実技指導(例：介護の方法など)
調べ学習
話し合い活動
資料の配布
その他
特に事前学習はしていない

問8：学校外のどのような人と協力して取り組まれましたか？(複数回答可)

当事者(高齢者、障害のある方、子育て中の親など)
ボランティア、ボランティアグループ、NPO・市民活動団体
社会福祉施設
介護福祉士、保健師などの専門家
市町社会福祉協議会
学区(地区)社会福祉協議会
民生委員児童委員
福祉社推進員、福祉協力員など
自治会、老人クラブ、子ども会など
市町の福祉課
その他
学校外で協力した人はいない

問9：学校外の人と協力するには何が課題ですか？(複数回答可)

打合せなどをする時間が無いこと
どう協力してもらえばいいかわからないこと
誰と協力したらいいかわからないこと
どういうルートで協力を依頼すればいいかわからないこと
学校外に相談する人がいないこと
その他

問10：福祉教育に取り組まれた後、児童・生徒にどのような変化がありましたか？
【最も大きな変化と考えられる回答を3つ選択してください。】

- 車いすや手話などに興味をもつようになった
- 段差など不便な箇所に気づくようになった
- 高齢者や障害のある方をいたわれるようになった
- 相手の立場になって考えられるようになった
- 自ら進んで考え、行動できるようになった
- ボランティア活動や福祉の活動に参加するようになった
- その他
- あまり変化が見られない

問11：児童・生徒の変化をどのように把握されましたか？（複数回答可）

- 感想文の作成
- 感想や意見を発表する場をもった
- 子ども達で話し合う場をもった
- 日頃の子どもの話や行動から把握した
- 保護者や学校外の話から把握した
- その他

問12：福祉教育に取り組まれ、貴方を含め教員にどのような変化がありましたか？
（複数回答可）

- 高齢者や障害のある方の不便さやつらさがわかるようになった
- 高齢者や障害のある方と自然にふれあえるようになった
- 学校外の人とのつながりができた
- 学校内に福祉教育への理解が広がった
- 学校と学校外の人がつながることの大切さがわかった
- その他
- 特に変化は見られない

問13：福祉教育を企画、実施するにあたって、どんな問題点がありましたか？
（複数回答可）

- | | | |
|------------------------|------------|-------------|
| 教員の協力体制 | 教員の研修 | 他の教科等との調整 |
| 時間数の確保 | 必要な物品の確保 | 必要な予算の確保 |
| どのような内容や方法にすればいいかわからない | | 施設等が近隣にない |
| 学校外のことかわからない(協力者など) | | 学校外との連携 |
| 取り組み内容が繋がらず単発になった | | 講師等の謝礼 |
| 安全の確保 | 保護者の理解 | 児童・生徒の関心が薄い |
| その他 | 特に問題点はなかった | |

*問14は、問1で と回答された学校のみ回答してください。

問14：昨年度、福祉教育に取り組まれなかった理由は何ですか？（複数回答可）

学校の方針	他の分野に重点的に取り組んでいる
カリキュラムに余裕が無い	担当教員に取り組む時間が無い
近隣に施設等が無い	必要な物品が無い
どのような内容や方法がわからない	その他

*以下の設問は、昨年度の取り組みの有無に関わらず、全ての学校が回答してください。

問15：今後、どのような内容に取り組みたいです（複数回答可）

車いす体験	高齢者疑似体験	アイマスク体験
介護体験	点字や手話の学習	ボランティア体験
高齢者等への手紙	当事者の講演会	施設の訪問・交流
学校への招待・交流	地域の高齢者等の訪問	制度などの学習
まちの探検(パリアリ-調査等)	読み物・ビデオを用いた学習	
その他	今後も取り組む予定はない	

問16：今後の取り組みに向けてどのようなことを希望されますか（複数回答可）

教員の協力体制
 教員への福祉や福祉教育についての研修
 他校の取り組み事例の提供
 他校との情報交換の場
 学校外の施設や人などの情報提供
 学校外のことと相談できる人
 福祉教育について学校外の人と話し合う場
 その他
 特に希望はない

問17：福祉教育を通じ児童・生徒に伝えたいことや学んで欲しいことは何ですか？
 【特に大切と考えられている回答を3つ選択してください。】

車いすの扱い方などの技術	段差などの不便さ
障害のあることのつらさ	高齢者や障害のある方へのいたわり
相手の立場に立って考えること	一人ひとりの違いを認める
自分のこととして考える力	その他

問18：福祉教育を児童・生徒だけでなく、地域の方も一緒に学習する取り組みにしていくことをどう考えられますか？

必要と思い、取り組んでいる
 必要と思うので、今後、取り組んでいきたい
 必要と思うが、取り組むのは難しい
 必要と思わない
 わからない

その他

*以下の設問は、自由記述です。回答用紙の枠内に何なりと記入してください。

問19：福祉教育の課題として感じになっていることがあれば、お書きください。

問20：課題を解決する方法として考えられることがあれば、お書きください。

問21：市町社会福祉協議会では、児童・生徒のボランティア体験や自治会単位での住民の方への福祉学習など、地域福祉活動に取り組んでいます。今後、福祉教育を進めるうえで、市町社会福祉協議会に求められることがあれば、お書きください。

問22：県社会福祉協議会では、福祉教育を進めるために、毎年、担当教員の方などを対象に、「福祉教育実践研修会」を開催しています。
今後の研修会の内容として希望されることがあれば、お書きください。

ご協力ありがとうございました。